

関東における「道の駅」と大学の連携について

1. 就労体験型の進捗

○協定締結:14大学

【茨城県】茨城キリスト教、茨城県立農業、筑波

【栃木県】宇都宮、佐野短期、文星芸術

【埼玉県】淑徳

【千葉県】城西国際

【東京都】跡見学園女子、帝京、立教

【長野県】松本、長野

【山梨県】山梨学院

関東地方整備局管内の連携企画型大学連携実施駅 位置図



2. 連携企画型の進捗

○実施内容確定:5大学

【栃木県】「はが(芳賀町)」－文星芸術大学

花火大会ポスターや新商品(梨ワイン)のラベルのデザイン等

「にしかた(栃木市)」－宇都宮大学

地元農産物を活用した弁当・総菜・スイーツメニューの開発等

【群馬県】「甘楽(甘楽町)」－帝京大学

城下町小幡まち歩きのための体験プログラム、コンシェルジュ、フードの企画

【埼玉県】「めめま(熊谷市)」－立正大学

駅と国宝「妻沼聖天山」を核とする地域活性化に向けた情報発信等

【千葉県】「鴨川オーシャンパーク(鴨川市)」－城西国際大学

特産品による独自商品開発、魅力発信「情報基地」化

○近日、確定予定

【栃木県】「もてぎ(茂木町)」－跡見学園女子大学

【埼玉県】「いちごの里よしみ(吉見町)」－立教大学

3. その他

○都心の大学が制度の趣旨に賛同し、就労体験型と連携企画型の両連携に参画する1号案件として、跡見学園女子大学と立教大学の生徒6名が5月7日に表敬訪問。



報道・広報

[ホーム](#) > [報道・広報](#) > [報道発表資料](#) > 「道の駅」における大学との連携・交流を本格実施します

「道の駅」における大学との連携・交流を本格実施します

平成26年11月21日

「道の駅」には地域の観光資源や魅力を語る人材が集まっており、地域の課題を解決する拠点となっています。また、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するためには、現場での就労体験を通して、実践的な知識や技術を学ぶことが重要です。このため、「道の駅」を、観光振興や地域振興を学ぶ学生の課外活動やインターンシップの場として本格活用することとしました。これまで、「道の駅」において、地元大学等と個別に連携を行う事例はありましたが、全国の「道の駅」を対象に実施することにより、都市部の学生が地方部の「道の駅」で交流するなど、新たな価値の創造が期待されます。(別紙1参照)

<実施内容例>

- ・観光資源調査、地域活性化プログラムの企画・立案
- ・HPやSNSなどによる情報発信の提案・実施
- ・地場産品を活用したオリジナル弁当などの商品開発

<今後のスケジュール>

平成27年度からの受入開始に向け、派遣を希望する大学等と、個別調整を進める予定。

お問い合わせ先

国土交通省道路局 企画課 課長補佐 小島 昌希

TEL: (03)5253-8111 (内線37532) 直通 03-5253-8485 FAX: 03-5253-1618

国土交通省観光庁 観光産業課 課長補佐 堀江 直宏

TEL: (03)5253-8111 (内線27302) 直通 03-5253-8329 FAX: 03-5253-1585



PDF形式のファイルをご覧いただくためには、Adobe Acrobat Readerが必要です。左のアイコンをクリックしてAdobe Acrobat Readerをダウンロードしてください(無償)。Acrobat Readerをダウンロードしても、PDFファイルが正常に表示されない場合は[こちら](#)をご覧ください。

[ページの先頭に戻る](#)

国土交通省 [[アクセス情報・地図](#)]

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 (代表電話) 03-5253-8111

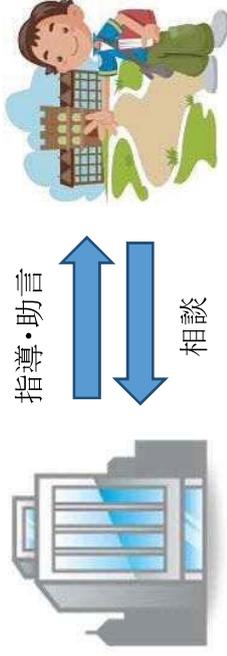
[プライバシーポリシー](#) | [リンク・著作権・免責事項について](#) | [関連リンク集](#)



Copyright © 2008-2014 MLIT Japan, All Rights Reserved.

- 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の就労体験や交流の場として活用。
- 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図る。

実施イメージ



大学（観光学部等）

学生

若者の視点・スキル等の活用
 就業体験の場の提供
 田舎暮らし・地域との交流



「道の駅」

<実施内容例>

- ・観光資源調査、地域活性化プログラムの企画・立案
- ・HPやSNSなどによる情報発信
- ・地場産品を活用したオリジナル弁当などの商品開発

※ 運営等の就労体験を通じて実施するものと、大学の授業の中で実施するものを想定

これまでの実施例

○イベントの企画実施や、商品販売など様々な場面での交流体験



「霧の森」(愛媛県四国中央市)

- ・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元産品の製造・販売の補助を実施。
- ・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加



大学生が企画したイベント



地元産品「霧の森大福」

- ・H15からこれまで約110名が実施
- ・そのうち2名が「道の駅」へ就職

○地場産品を活用した「道の駅」の商品開発



- 京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅
- ・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパップケージをデザイン



包装デザイン打合せ



- 「かなん」(大阪府河南町)
- ・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発



道の駅弁当「かなん冬の恵み」

道の駅「はが」と文星芸術大学との連携

道の駅「はが」と文星芸術大学（美術学部デザイン専攻）の学生が連携して、「道の駅」販売商品の開発等を行います。

■お祭りのポスター作成

①「芳賀町ロマン花火 2015」の開催案内ポスターの制作

- ・花火開催日：平成27年8月1日予定
- ・開催場所：道の駅はが ロマンの湯 西側

■「道の駅」販売商品等のデザイン作成

②「梨ワイン」の商品ラベル作成

- ・「道の駅」において、近日発売予定の「梨ワイン」の商品ラベルを作成

③「道の駅」オリジナルグッズの商品開発

- ・「道の駅」で販売予定の芳賀町マスコミキャラクター「はがまるくん」の商品開発



【芳賀町ロマン花火2015】
道の駅「はが」の西側で開催され、例年5～6万人が訪れる花火大会です。約5000発の花火が打ち上げられ、五行川（ごぎょうがわ）の水面に映る花火は幻想的です。「芳賀温泉ロマンの湯」の露天風呂からも鑑賞できます。
また、当日は、道の駅「はが」において様々なイベントを開催する予定です。

【「にっこり梨」】

芳賀町の特産品で、無袋栽培で太陽の光をふんだんに浴びて育ち、シャリッとおいしい歯ざわりで人気の赤梨です。甘くてみずみずしく、夏ばて解消にも効果があると言われています。今後、「にっこり梨」を使用した「梨ワイン」の販売を予定しています。



【はがまるくん】

芳賀町のマスコミキャラクターです。平成26年に迎えた「町制施行60周年」にさきがけて、公募により募集・決定しました。

【文星芸術大学】

文星芸術大学（所在地：栃木県宇都宮市）は、伝統と最先端の双方に根ざした優れた美意識を持った人材の育成など広く文化に貢献できる人材育成を教育目標としており、7つの専門分野を設けています。

このうち、デザイン専攻は、グラフィックデザインや装飾デザインなど4つの研究室に分かれており、造形教育に特化することなく、今のデザイナーに必要な「経営のための技術」という実践的な側面も学んでいます。

また、地域社会との連携を深めるため、文星・芸術文化地域連携センターを平成20年9月に学内に設置し、自治体と連携し、各種デザインの企画・開発に取り組んでいます。

道の駅めぬまと立正大学との連携

道の駅めぬまと立正大学の学生が連携して、道の駅と国宝「妻沼聖天山（歡喜院聖天堂）」を核とした地域活性化に向け、観光情報発信、観光資源マップの作成等を行います。

■道の駅めぬまと国宝「妻沼聖天山（歡喜院聖天堂）」の連携促進

1. 学生による観光情報発信
 - ・イベント時に道の駅内に学生による観光案内デスクを設置
 - ・道の駅を拠点とした観光モデルルートを紹介
 - ・道の駅の来場者のニーズを、アンケート調査、分析により確認
2. 新たな観光資源マップの作成
 - ・学生が道の駅から妻沼聖天山までのフィールドワーク調査等により新たな地域資源を発掘
 - ・道の駅と妻沼聖天山を拠点とする新たな観光資源マップとして取りまとめ

立正大学

立正大学は（所在地：東京都品川区および埼玉県熊谷市）、2012年に開校140周年を迎えた歴史と伝統のある総合大学で、「人間・社会・地球（環境）」に関する8学部15学科を有しています。

今回、参画する地球環境科学部地理学科では、人文・自然の両面から地域の事象を把握し、問題点を探っていく予定です。2014年に大学が文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択されたことを受け、双方向授業やフィールドワークの充実など、学生がよりアクティブに学べる教育環境を整備し、新しいスタイルの授業を展開しています。

また、学生がまちづくり活動に参加する場として熊谷市妻沼地区の観光まちづくりを取り上げ、2015年3月に地理学科学生取材による「めぬま観光読本。」を発行しています。

妻沼聖天山歡喜院（熊谷市HPより）

本殿「聖天堂」は約830年前に、源平合戦の英雄、高藤別当実盛により開かれたとされ、現在の建物は、宝暦10年（1760）に完成しました。
日光東照宮を彷彿させる本格的装飾建築で、その精巧さゆえに「埼玉日光」と称され、国宝に指定されています。



2030年の街を憧れで見る風景をみたくて 国宝 歡喜院聖天堂



地域活性化に向けた核として、道の駅めぬまと妻沼聖天山の連携を促進

道の駅めぬま

花や野菜をテーマにしたアグリパーク内の「めぬまばる」では、ジェラートをはじめ、麦とろ御膳、ジャンボいなり寿司が人気です。バラ園では、約400種2,000株の鮮やかなバラを楽しむことができます。新鮮野菜はめぬま物産センターで販売されています。



道の駅「甘楽^{かんら}」と帝京大学経済学部観光経営学科の学生が連携して、まち歩き体験プログラムやフードメニューの開発を実施します。

①まち歩き体験プログラムづくり

- 道の駅を城下町小幡^{おぼた}のまち歩きの入口として位置付け、以下を実施
- ・クイズ形式で謎解きをしながら観光拠点を巡りつつ、例えば城下での羽根つき等を各拠点で体験できる回遊プログラムの企画提案。
 - ・回遊プログラムを中心にまちの魅力を発信、提案する観光コンシェルジュの仕組みづくり企画提案。

城下町小幡^{おぼた}は小幡氏、織田氏が統治した小さな城下町です。



古い街並み



国指定名勝楽山園

「楽山園^{らくさんえん}」は戦国武将の織田信長の次男^{のふかつ}信雄が甘楽町小幡に城下町を築く際に造られた池泉回遊式の庭園です。



【道の駅甘楽案内図】

②まち歩きフードメニューの開発

- 地元特産品や交流都市の食材等を活用したまち歩きのお供となるテイクアウト・アイテムを中心に、道の駅フードメニューの開発等を実施。



【道の駅甘楽 全景】

【帝京大学】

帝京大学経済学部観光経営学科を中心に学生約7名が道の駅甘楽を現地研究フィールドとする「道の駅検討チーム」として活動予定。

これまでに経済学部観光経営学科の大河教授は、甘楽町まちづくりアドバイザーとして「歩きたくなるまち『小幡』の実現に向けてをテーマに、甘楽町観光まちづくりプランに参画されています。

「かんらちゃん」は公募により募集し、甘楽町発足55周年記念の日に誕生しました



道の駅「鴨川オアシャンパーク」と城西国際大学の連携

道の駅「鴨川オアシャンパーク」と城西国際大学（観光学部）の学生が連携し、海の幸・山の幸に恵まれた鴨川の食材を活かした独自商品の開発や魅力発信する「情報基地」化を企画・立案します。

①道の駅「鴨川オアシャンパーク」利用者のニーズを調査。

また、鴨川の「歴史」「文化」「特産」を学び、地域の観光資源を把握。

結果を反映

②独自の販売商品等の開発

- ・ 鴨川の特産をぎゅっと詰めた、道の駅で販売するオリジナル弁当等の企画・販売
- ・ 道の駅内にあるレストランの新たなメニュー開発、レストランのレイアウトの提案



光沢と風味が自慢の長狭米



地元で水揚げされた金目鯛

③観光資源の情報発信

- ・ 魅力を発信する「情報基地」としての仕組みづくり
- ・ 鴨川の魅力をもとめたリーフレット等の作成



道の駅を拠点とした情報発信



魅力を発信するリーフレット

【城西国際大学（所在地：千葉県鴨川市）】

城西国際大学は、ウェルネスツーリズム※を指した実践的な観光学を学びます。特に親身な教育、地元鴨川・南房総でのフィールド地域プロジェクトを通しての実務に強い教育が特色です。

※ウェルネスツーリズムとは、「観光者と住民との協働で生み出される人と地球にやさしい観光」のことです。

ウェルネスツーリズム



【道の駅「鴨川オアシャンパーク」】

鴨川オアシャンパークは、文字通り豊かな自然や温暖な気候に育まれた鴨川の魅力である「海」と「花」を基本テーマに、訪れる人々に憩いとやすらぎのひとときをつくる観光拠点づくりを目指すとともに、地場産業や文化、芸術分野との連携を図ることで地域の総合的な活性化と交流の場を目的とした海浜型リゾートパークです。



道の駅「にしかた」と宇都宮大学との連携

道の駅「にしかた」と宇都宮大学(教育学部家政教育専攻)の学生が連携して、地元農産物(とちぎ小江戸ブランド認定農産物)を活用した道の駅「にしかた」オリジナルのメニュー開発を行います。

■道の駅で提供するメニューの開発

- ① 農村レストランのメニュー開発
- ② 農産物直売所の弁当・総菜のメニュー開発
- ③ スイーツのメニュー開発



「とちぎ小江戸ブランド」に認定されている米や梅などを活用したメニューの開発

【宇都宮大学】

宇都宮大学(所在地: 栃木県宇都宮市)は、1949年に創立された栃木県で唯一の国立大学で、専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成を目指しています。

今回、参画する教育学部家政教育専攻では、生活に関する専門教育を基礎とし、生活全般にわたる専門的・実践的な内容からなる講義と実験・実習等を行い、生活者の視点を踏まえて総合的な観点から多面的に捉える教育と研究等を進めています。

今までの取り組みの一つとして、平成24年度より地場産物を活用した健康メニューの開発も行っており、開発した「餃子めし」などは、食育フェアや市の保健センター、学校給食等で提供され、好評を得ています。

なお、「地域活性化の中核的拠点」を目指し、平成28年4月に新学部「地域デザイン科学部」の設置を計画中です。

【とちぎ小江戸ブランド】

栃木市内の特性を活かした、特産品及び農作物等を地域ブランドとして認定し、県内外に情報を発信することにより、本市の知名度向上、産業の振興及び地域の活性化を図ることを目的とし、栃木市ブランド推進協議会において、選考し認定を行っています。ちなみに農産物は、平成25年度までに「真上の梅」を含め15品目が認定されています。



【お米(桜おとめ)】

「桜おとめ」は、栃木市西方町産で江戸時代から品質の高さに定評があります。日光連山からの湧水が流れる思川から小倉堰を介して水田に行き渡り、高い技術により栽培されています。



【真上の梅】

真上地区では、昔、こんにやくいもを栽培していたが、高齢化に伴い放棄地が出てきたため、あまり手のかからない梅を平成15年から栽培することになった。平成20年には本格的な収穫が始まり、年々収穫量が増えています。なお、今年の6月には収穫体験ツアーを予定しており、宇都宮大学の学生も体験し、生産者の思いを受け取りメニューに活かしたいと考えています。



【平成27年5月7日】「道の駅」の実習学生による太田大臣への表敬訪問

平成27年5月7日(木)、本年度、「道の駅」で観光・地域づくりの実習を行う立教大学と跡見学園女子大学の学生6名と担当教官が太田国土交通大臣を表敬訪問しました。

太田大臣は、学生の皆さんが道の駅で実習を行うと聞いて大変うれしく感じている、「道の駅」は地方創生の拠点であり、皆さんの取組と笑顔で地方が活性化することを期待する旨述べました。

実習学生らは、女子力を活かして、女子も買いたいと思えるようなデザインを提案して販売を拡大したい、実習先の道の駅を日本一の道の駅にしたいなどの意気込みを述べました。

